

## ■活動レポート

### ■学芸員室より

#### 複製品(レプリカ)と実物資料

女鹿潤哉(考古担当・学芸員)

博物館などを見学した際、展示されている資料の名称などが書かれたパネルに「複製(品)」または「レプリカ」と記されていることがしばしばあります。それは、その資料が実物ではなく、実物を模して製作されたことを示すものです。

入館された方々に見ていただく博物館資料として、実物にまさるものはありません。しかし、どうしても展示したい実物資料が借受や購入できない場合、展示していた資料を他館へ貸し出す場合、展示することで資料の劣化が予想される場合、傷みが激しく展示が困難な場合などが出てきます。このような場合には、複製品によって展示を構成することがあります。

複製品は、実物に代わる資料ですから、

実物の形や色彩などを正確に模し、「実物」を忠実に再現したものでなければなりません。ですから、優れた技能をもつ技術者を有する専門の業者でなければ、そうした複製品を製作することは困難です。また、展示を構成する資料としてふさわしい複製品を製作するために、学芸員が果たす役割も重要となります。

というのは、複製品を製作する資料の意味や現在の状態などを把握した上で、製作にあたる技術者に適切な指示を与えなければならないからです。細かな所を正確に模すことはいうまでもありませんが、一つの資料として見た場合にも、「実物」が再現されていなければなりません。実物資料の凹凸や色、光沢などには、微妙なものがありますので、実物と複製品とを何度も見くらべて、理想に近づけていきます。

当館考古担当では、昨年度の盛岡市萩内



遺跡出土の土偶頭部(重要文化財・文化庁所有)複製品[写真左]に続き、今年度は盛岡市上田蝦夷森古墳群出土の衝角付甲(岩手県指定文化財・盛岡市所有)複製品[写真右]を製作しました。ともに、総合展示室「いわての夜明け」に展示されている資料の複製品ですが、複製品と実物とを見くらべても、容易には違いがわからないほどに仕上がっています。

たびたびご来館いただき、日頃ご覧になっておられる実物の代わりとして、複製品が展示された際には、じっくりと観察してみたいかがでしょうか。

### ■フォトスケッチ

#### 土曜日には博物館へ! 土曜日の事業

佐藤嘉広(主任専門学芸員)

平成14年4月から、学校が土曜・日曜とも休日となりました。当館でも、これにあわせて、小中学生を対象とした事業を新たに企画しました。

#### 「楽しい土曜博物館」

毎月第2土曜日 13:30~14:30

対象:小学校高学年(定員20名)

博物館の展示や所蔵されている資料などを用いながら、子どもたちに学校教育内容とは異なった新たな発見や体験を提供しようとするものです。

たとえば、博物館内に展示されている国宝や重要文化財をオリエンテーリング的に調査したり、クイズ形式でひと昔前の道具を調べてみたりするような内容で、すでに

8回実施しています。

類似した事業に、「みんなでためそう! 体験教室」(毎日曜日実施)がありますが、これは、小学校中学年程度を対象とし、何かを製作するプログラムを中心としているもので、参加者層も異なっています。



#### 「一日学芸員体験」

毎月第3土曜日 13:30~15:30

対象:小学校高学年~中学生(定員10名)

多くの小中学生にとって、博物館は「展示見学の場」であるため、学芸員に直接接することはまずありません。そのため、学芸員がふだんのような仕事をしているの

かを知る機会はほとんどなかったといえます。そこで、学芸員の日常を体験してもらおうとするのがこの企画です。

考古分野では石器の作図、生物分野では昆虫標本の製作など、学芸員はそれぞれの専門分野ごとに求められる資料の整理方法や取扱方法が異なります。毎回違った分野を体験してもらうため、参加するたびに新たな技術や知識を得て、学芸員の仕事全体を知ることができます。

この事業に参加して、将来の職業の選択肢として学芸員をあげてもらえるなら、私たちの喜びとするところです。

このほか、第1土曜日には「これなあに」を発行しますので、その日を「博物館再発見」として各方面に周知しています。また、第5土曜日には、「ミュージアムシアター」として映画会などを開催しています。

休日となった土曜日を、ぜひ一度県立博物館で過ごしてみてください。